

第3学年国語科学習指導案

日時 令和3年11月2日(火) 5校時
学級 宮古市立河南中学校 3年A組 26名
授業者 教諭 松井端 望

1 単元名 芭蕉の旅への思いを考えよう

教材名 「おくのほそ道」(東京書籍 新しい 国語 3)

2 内容のまとめ

第3学年

〔知識及び技能〕(3) 我が国の言語文化に関する事項

〔思考力、判断力、表現力等〕「C読むこと」

3 単元の目標

(1) 歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。

【知識及び技能】(3) ア

(2) 文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。

【思考力、判断力、表現力等】C(1) イ

(3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。

【学びに向かう力、人間性等】

4 単元について

(1) 生徒について

- ア 古典作品が書かれた時代背景を知り、書き手の心情に寄り添いながら筆者の伝えたいことを考えたり、古典作品の書きぶりをまねながら自身の考えを書いたりする学習を行ってきている。
- イ 前単元においても時代背景や作者の心情を想像しながら音読したり、表現上の特徴や作風の違いに注目して作品を読んだりしており、前単元までに古典作品に限らず、文章と自己とを結び付けるといった学習経験がある。
- ウ 時代背景が作品の特徴や作風に影響を与えており、作品だけでなくその背景にまで目を向けようとする思考が身に付いてきている。

(2) 教材について

- ア 本教材は格調高い文体と多くの名句からなる作品で、俳句と和漢混交文とが組み合わさることの効果や対句的な表現、作品の構成や表現の魅力に気付くことができる教材である。
- イ 本教材は古典作品の中でも文化的に現代と近い要素を含んでおり、テーマが明確で生徒も共感できるような構成になっている。文章の構成や表現の特徴を学習したり、作者の思いを考えたりするのに適した教材である。
- ウ 補助教材として「おくのほそ道」の他の章段と、「『おくのほそ道』の旅」を使用する。

7 本時の指導（ 4 時間目 / 全 5 時間 ）

（ 1 ） 目標

「おくのほそ道」の他の章段を読んで芭蕉の旅への思いについて理解を深めることができる。

（ 2 ） 評価規準

評価の観点	B「概ね満足である」と判断される状況	支援を要する生徒への手立て
【思考・判断・表現】	文章を比較して、芭蕉の思いについて新たな視点を見つけたり考えを深めたりすることができる。	文章を比較することで、考えや視点の違いに気付くことができるように支援する。

（ 3 ） 研究との関わり（UDの視点）

焦点化…①学習活動の見通しを持ち、課題解決に向かう意識を持たせる。

②課題解決につながる学習活動を明確にする。

視覚化…①学習活動を円滑に行えるように、確認すべき事項を視覚的に捉える。

共有化…①他者と考えを共有したり比較したりすることで、学びを深めたり振り返ったりする。

（ 4 ） 本時の展開

段階	学習活動	指導上の留意点（◆評価）	UDの視点
導入 7分	<u>1 前時までの振り返り</u> ・『「おくのほそ道」の旅』での学習過程と旅への思いを振り返る。 ・本時では芭蕉の旅への思いを「おくのほそ道」の他の章段と比較しながら考えを深めることを確認する。	・前時までの学習を投影しながら共通した既習の振り返りを行う。 ・「芭蕉の旅への思い」に焦点を絞って学習することを確認する。	視覚化① 焦点化①
	「おくのほそ道」の他の章段を読んで芭蕉の旅への思いについて理解を深める。		
展開 36分	<u>2 おくのほそ道の他の章段を読む</u> ・芭蕉の旅への思いにつながる表現に着目しながら読む。	・着目した部分を共有することで、この後の活動にスムーズに移行させる。	視覚化①
	<u>3 他の章段から一つ選び、芭蕉の旅への思いを考える</u> ・記述に注目して、根拠を明らかにしながら芭蕉の思いをまとめる。	・自由に交流しながら、教え合いを行う。 ・自分で考えるか交流するかは個人の判断に任せる。	焦点化②
	<u>4 芭蕉の旅への思いを共有する</u> ・資料ごとの発表を通して、他の考え方と自分の考えを比較する。	・自分の考えとの共通点や相違点に注目させる。	共有化①
	<u>5 芭蕉の旅への思いを深める</u> ・共有した考え方をもとに、芭蕉の旅への思いを深める。	◆【思考・判断・表現】 「新・深・変」の観点にあてはめながら芭蕉の旅への思いを深めている。	
終末 7分	<u>6 本時の学習を振り返る</u> ・振り返りを記入し、発表する。	・全体の学びをそろえさせる。	共有化①
	<u>7 次時の確認</u> ・芭蕉の旅への思いをスライドにまとめることを確認する	・1時間目に示したスライドを想起させて次の活動への意欲を持たせる。	焦点化①

(3)指導について

- ア 本単元では「おくのほそ道」を読み、考えたことを伝え合う活動を行うために作品の成り立ちや俳人について知る機会を設けたり、現代語訳を内容把握に用いたりしながら作者の旅への思いを読み深めたい。また、旅の途中で読まれた句や表現の工夫、書かれている文体に注目しながら読み進めたい。
- イ 「おくのほそ道」への理解を助けるために補助教材を使用し、歴史的背景や作者の思いについて触れることで主体的に授業に参加できるようにし、周囲と考えを交流したうえで作者の思いにせまるような工夫を行う。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。(3)ア	①「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。C(1)イ	①積極的に作者の旅への思いを、補助教材や他者の考えを参考にしながら学習課題に沿って考えを深め発表しようとしている。

6 指導と評価の計画(5時間)

※網掛けは記録に残す評価

時	ねらい	学習活動	評価規準・評価方法等		
			知・技	思・判・表	態
1	文体や表現の工夫に注意して音読し、文章中での俳句の役割について考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が旅への思いをパワーポイントを用いて発表し、ゴールを意識する。 ・全文を通読し、現代語訳と合わせて内容を理解する。 ・既習事項を用いながら、表現の工夫や文体の特徴について考える。 ・文章と俳句が組み合わせられていることの意味や効果について考える。 	① ワークシート		
2	「おくのほそ道」の冒頭部分を読み、作品に描かれた作者の旅への思いを理解することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・冒頭部分を読み、「おくのほそ道」が書かれた当時の時代背景について考える。 ・芭蕉があこがれた俳人について触れ、冒頭部分からわかる芭蕉の旅への憧れについて考える。 	① ワークシート		
3	『おくのほそ道』の旅を読み、芭蕉の旅への思いを深めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・『おくのほそ道』の旅を読み、歴史的背景や作者の思いへの理解を深める。 		① ワークシート	
4 本時	「おくのほそ道」の他の章段を読んで芭蕉の旅への思いについて理解を深めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・本教材以外の「おくのほそ道」の章段を読み、芭蕉の旅への思いについて理解を深める。 ・これまで読んだ文章をもとに芭蕉の旅への思いについて「新、深、変」の観点でまとめる。 		① ワークシート	
5	芭蕉の旅への思いを交流することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを用いて、芭蕉の旅への思いとその根拠をまとめる。 ・芭蕉の旅への思いをまとめたものを発表し交流する。 		① 発表シート	① 行動観察